

日本高齢者運動連絡会ニュース

発行責任者 藤谷 恵三 発行所 日本高齢者運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンボール中野 504 号
Tel/Fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com

発行：毎月1日
2016年2月1日
No.306



「第29回高知県高齢者大会 in 安芸」文化行事『弥太郎太鼓』（記事 P5）

高齢者の悩み 3K=金・健康・孤立

1・12「1月度高齢期運動推進事務局団体会議」

日本高齢者運動連絡会

日本高齢者運動連絡会は1月12日（火）午後、2016年1月度高齢期運動推進事務局団体会議を開き、8団体と事務局あわせて14人が出席しました。

◇

（1）情勢報告（藤谷事務局長）…①国は「1億総活躍社会」の名で社会保障切り捨て政策、医療・介護だけでなく保育や障害者も共助にするために「地域包括ケア」から「新しい地域包括支援体制」へ政策転換②国は、「地方創生」の名で、医療・福祉の財政責任とプランを放棄、ひと・まち・しごと創生本部が「小さな拠点」のコンパクトビレッジ構

想を推進③高齢者の悩みは3つのK=「金」「健康」「孤立」を解決する運動が求められている④高齢期運動とは何か、高齢期は誰でも訪れるのですべての組織の課題となり得るが、それを専門に担う運動がなければ発展しない

（2）各県・団体の報告…県高齢者大会を4月25日に開催することに決まり準備に取り組む（静岡県）。12月9～10日、第33回中央委員会を開催した。大きな課題は、年金裁判・仲間づくり・要求実現、戦争法案廃止の取り組み。現在の組合員数11万6493人、昨年6月から1,056人純増。年

金裁判は「給付訴訟」へ。これにより原告の地元地裁でたたかえるように変化してきた。政党回りを行っている。1/20に署名の紹介議員要請を行う。戦争法廃止にどう積極的に取り組んでいくか（年金者組合）。冬季加算の問題に取り組み、資産調査・マイナンバーの記入を義務化・要件化させない。戦争法廃止の署名は総がかりと連携して進める（全生連）。100万目標達成、2000万人統一署名、「署名投函ボックスに早変わりするステッカー」や横断幕を各県に送っている。大会で「高齢者が安心して暮らせる社会保障制度を！」を打ち出している。介護報酬の引き下げで地域密着の小規模多機能が減っている。行政から閉店したレストランの空き店舗に家賃補助をして貸してもらってカフェを開くという実践もある(新婦人)。建交労の高齢

者部会は高齢者事業団の高齢者を組織している組合の中のブロック。随意契約が外され入札で契約金が安くなり事業団では仕事が取れない事態も。介護事業も訪問介護中心で、総合事業に移ると今後の事業が厳しくなる（建交労）。県大会を3/12に開催する。介護保険料は現状のまま上げない予定と県から回答（茨城）。12/19、2000万署名のキックオフ集会を開き、青年職員が取り組みを始めている。群馬では20～30代がPAG（PEACE ACTION from GUNMA）を結成し、民医連職員も中心的に参加している（民医連）。12/23-24、実行委員会合宿を行い、意義やめざすものなどについて論議した。サブスローガンの提案。分科会会場が大正大学に決定（東京実行委員会）。

「第30回日本高齢者大会in東京」に向け本格スタート 東京実行委員会第2回総会開く

東京実行委員会

第30回日本高齢者大会 in 東京・東京実行委員会は11月27日、中野サンプラザ会議室で第2回総会を行いました。都内各団体や各地域から36人の参加がありました。

金子実行委員長代理が開会あいさつし、「第27回高齢者のつどいは800人で成功した。いよいよ来年の大会に向け本格的に運動をスタートさせましょう。特に財政・募金活動、地域実行委員会づくりが重要になっている」と訴えました。

日本高齢者運動連絡会藤谷事務局長あいさつでは30回大会の魅力づくりをしようと訴えがあり、東京への期待が述べられました。

続いて菅谷事務局長から第1回総会以降の活動の経過報告と、協議事項提案がありました。提案では①30回大会の基本的性格と情勢を捉えて高齢者大会の企画を練り上げよう②大会までの主な活動の見通し③地域実行委員会を2月までにすべての地域で結

成し、幅広い呼びかけで運動の輪を広げよう④大規模な財政活動を展開して大会を成功させよう⑤役員の補充⑥当面の取り組みとして12/16-18の予算要求年末座り込みに参加しようと訴えがありました。

なお、地域の高齢者のつどいは北・江東・府中・町田で行われました。

また、武市事務局長代理から地域実行委員会づくりの報告があり、地域実行委員会の活動として①高齢者大会を知らせる学習・宣伝②高齢期要求について話し合う③高齢者大会への意見・要望を出す④参加目標を決め参加を呼び掛ける⑤募金や賛同金など財政活動⑥地域で「高齢者のつどい」等開催することを提起。東京実行委員会として地域ごとの状況をつかんで具体的に援助していくことを訴えました。

また、中山事務局次長（財政担当）から、大会成功のための財政方針（東京として750

万円必要)や、賛同金要請の内容、大規模カンパ、物品販売・事業活動のイメージについて語られました。賛同金・カンパ活動を急いで強めていくよう訴えがありました。

(第30回日本高齢者大会 in 東京
現地実行委員会ニュース 1月1日より)

【地域からの報告】

「第12回世田谷高齢者のつどい」が11月8日(日)、東京土建世田谷支部会館で開かれました。

今回の学習テーマは「住み続けられるまちづくりと地域密着型サービスの整備」で、新潟県長岡市で小規模特養ホームを中心に地域密着型サービスを展開している「こぶし園」の木村正人さん、田中孝さんの実践を聞く会として開き、76人が参加しました。

世田谷の特養ホーム待機者は2千人を超え、早急な整備が急がれていますが、そのホームが地域の中に足場を持ち、家族や知人とつねに顔を合わせ交流できるような施設にしたい・・・世田谷の高齢者、福祉運動関係者はここ数年、そういう施設の在り方を模索してきて、長岡市「こぶし園」の実践例に注目し、この夏、20数人の見学団で現地を訪れるなどの活動をしており、世田谷区内でもっと認識を深めようと企画したものです。

両氏の話から、地域の高齢者優先で、家族や孫たちも気軽に集まり、365日3食配食するというこぶし園の運営方針に質問が集中し、充実した学習会となりました。

その後、立川談之助さんの「頑張っているお年寄り」の落語を聞き、楽しみました。高齢者のつどいの事務局長を11年間やってくれた神山信さんが亡くなり、準備が大幅に遅れての取り組みでしたが、チラシ広告を見ての一般参加も13人あり、よかったです。しかし、世田谷区の後援を受けてのつどいなので、区の福祉担当者を招待し、ともに考える企画にすればよかったかと、あとで反省しました。

(第12回高齢者のつどい 事務局長 酒井弘道)
現地実行委員会ニュース 1月1日より引用)

日本高齢者大会 in 東京

文京区実行委員会発足

第30回日本高齢者大会 in 東京実行委員会では、現在都内すべての区、市町村に大会成功めざし地域実行委員会づくりをすすめています。1月29日文京区実行委員会の発足総会が開かれました。結成総会までに3回準備会を開催。地域の団体オルグも行いました。総会当日は15名が参加。まず最初にみんなで和歌山大会のダイジェスト版DVDを鑑賞。高齢期運動サポートセンター専務の鐘ヶ江さんから「高齢期運動の歴史と課題」と題して講演をしていただきました。講演の最初にNHKスペシャル「日中独居」の冒頭部分を視聴。介護問題が高齢者をめぐる多様



な問題を内包している事、その打開の道について話されました。また、高齢期運動は健康・くらし・文化などの要求実現のため高齢者と多世代の連帯の運動であると話されました。高齢期保障と高齢期運動のあゆみについても触れられ、老人医療無料化の闘いの中で文京老後保障を確立する会の結成と活動があったことなども話され、高齢者の闘いの経過と高齢者大会がはじまった経緯、今の課題として、地域の団体や個人が連帯共同のコーディネーター「高齢期運動連絡会」をつくることの必要性を話されました。その後実行委員会体制の確認と、文京区での大会成功のための活動方針が提起されました。参加者からは、「この間文京区の地域の繋がりが希薄になっている。そんな中でまず文京区の高齢者の実態をきちんと掌握してゆくことが必要である」「前回大会の東京の財政責任者をしてきた。賛同署名・募金をたくさん集めた」「結局最後は身内や親族でなくとなり近所

の支え合いが必要だしたよりである。そんな関係をつくり出すことが必要」「自分のことだと思っていなかったが、今日の話でまだ若い自分も考えていけない課題だと思った」等の意見が出されました。最後に

実行委員会結成を確認して、今後実行委員会への参加者を増やすことや学習会を開催していくことも決定しました。

(記 武市 和彦氏)

第30回日本高齢者大会 in 東京 日程・会場決まる

8月28日・大正大学 29日・東京国際フォーラム

東京実行委員会は、1月13日、第7回常任実行委員会を開き、金子副実行委員長のあいさつの後、①この間の経過②第30回日本高齢者大会 in 東京をどんな大会にするか③実行委員会体制の補強と運営について確認

し、④企画委員会関係の報告と課題、提案⑤組織委員会関係の報告と課題、提案⑥総務・財政・設営委員会関係の報告と課題、提案⑦広報委員会関係の報告と課題、提案を行いました。

第30回日本高齢者大会 in 東京 日程

◇1日目 8月28日(日) 講座・分科会 大正大学
〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1

◇2日目 8月29日(月) 全体会 東京国際フォーラム
〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目5番1号

(※地図7～8ページ)

「老楽こそ希望～めざすべきは大人の国」

兵庫県高齢者大会で浜矩子さんが講演

兵庫県高齢者運動連絡会

兵庫県高齢者大会は兵庫県高齢者運動連絡会に加盟する団体の持ち回りで毎年秋に開催されます。今年は11月5日に神戸市の東灘区民センターうはらホールで開催されました。今回は、テレビ出演時の安倍政権批判でも有名な浜矩子(はま のりこ)さんを迎えての記念講演が注目を集め、広い会場が満席となりました。『高齢者はりまの会』からも28人が参加しました。

後援は浜さんの毒舌の連発とその裏にある奥深い理由の説明から始まり、会場は笑いの渦に巻き込まれました。

それから『老楽こそ希望～めざすべきは大

人の国』というテーマを、落語の『老楽風呂』を引用して話されました。「『老』を受け止め、『老』の楽しさ、安楽さに気づけば、決して悪いものではない。しかし、それだけでは自己満足で終わってしまう。さらに一歩踏み込んだ『老楽』を追求しよう」と語られました。

グローバル社会とはあたかも弱肉強食、自己責任で生きていく社会のように言われるが、誰一人として助け合わずには生きていけないのがグローバル社会の本質だと説明され、「人のために動くこと。越えるべきは越え、越えざるべきを越えぬこと。誰かのため

に涙する目、傾ける耳、差し伸べる手をもつこと、それこそが、現代に真に必要なとされる成熟した大人の精神『老楽精神』である」と説きました。そして、「それは政権を握っている政治家たちこそ持つべきであるのだが・・・」と現状を嘆かれ、会場は賛同の拍

手喝采に包まれました。

高齢者大会では、文化行事として『灘の酒造り唄』、『六甲海の手混声合唱団』の舞台が披露され、こちらも参加者の目と耳を大変楽しませました。

(姫路医療生協機関紙「ひめじ」No.425 より)

地元実行委員会の頑張り 11・1「第29回高知県高齢者大会in安芸」に119人 高知県高齢者運動連絡会

高知県高齢者大会は例年、高知市開催でしたが、参加者も減少しつつあることから、他県に学び、今回は高知市から50キロ東に離れた安芸市で開催しました。初めての体験型分散会が参加者に喜ばれ、地元参加も多く成功裏に終わりました。その様子を現地実行委員の長澤さんが、安芸老人問題研究会の機関紙「わすれな草」に掲載しましたので、紹介します。長澤さんは、高知での成功のため、ご夫婦で日本高齢者大会に参加し、看板の立て方や参加者の誘導など細かい点も学んでこられました。2016年の予定はこれからですが、地元を元気にしたいという点では、今後

も検討していかなければと考えています。
(高知県高齢者運動連絡会
高知医療生協 事務局 池田)



安芸老人問題研究会機関紙
「わすれな草」No.166より

「ひとりぼっちの高齢者をなくそう」を合言葉に、全国大会と同じ回数29回を数える「高知県高齢者大会」が安芸市で初めて開催

されました。

これまでの開催地はすべて高知市で、開催日もウイークデーの午後からというのが定番でしたが、今回はじめて高知市を離れて、しかも日曜日の午前10時から午後3時までという日程で実施されました。

参加者も主催者発表では119人ということで大成功のうちに終わりました。今年の2月頃より準備を始めた安芸市地元の実行委員会の皆さんの頑張りと行動力、熱意の意気込みが見事に実を結んだ結果でした。

午前中は3分科会に分かれて開催されました。そのうちの「C分科会」は「託老所わすれな草の取組」及び「医療介護のこれから」について学ぶ学習教室でした。わすれな草の名を冠した分科会ですので、大いに責任を感じて理事会や職員会で相談しながら事前の準備を進めました。

準備期間が短かったことに加えて、どの企画がふさわしいのかの絞込みに手間取り、最終的には、27年の1月から10月までの間の「わすれな草」の日常生活を合計24枚の記録写真にまとめてスライド上映をしました。そして、スライドの作成・編集は「安芸老研」理事の大場幸平さんと初田事務局長が担当しました。

あわせて、『「安芸老研」と「わすれな草」-29年のあゆみ-』の小冊子を資料として参加者に配布しました。

当日のスライドプロジェクターの操作は大場さんが担当し、ナレーションは「わすれな草」所長の富田初枝さん、管理者の多川由

佳さんの二人が交代で行いました。

スライド終了後には長澤理事長が挨拶を兼ねて、安芸老人問題研究会とわすれな草の関係、草創期から現在までの「わすれな草」の歴史などについて語りました。

なお、スライドの冒頭のシーンでは、市外から多数の参加者がおられるという折角の機会でもあり、安芸市の大山岬や野良時計などの名所スポットを5カ所紹介しました。

なお、午前中の他の分科会、A分科会「伊尾木洞や土居廊中など安芸の歴史と自然を学ぶ移動分科会」には30人が参加し、B分科会「内原野焼の陶芸体験」には15人が参加し、「わすれな草」の分科会は大ホールで行

われたこともあり50人近くの参加を得て、それぞれが所期の目的を果たすことができました。

午後の部＝全体会

高知県高齢者運動連絡会・小澤会長の主催者挨拶、安芸市社協・有光会長の来賓挨拶、安芸市長のメッセージ代読の後、文化行事として安芸市地元の「弥太郎太鼓」の演奏がありました。

引き続き記念講演では『地域を活かす』と題して有澤俊明氏の講演がありました。

最後に大会決議の採択をして、閉会の挨拶は安芸市実行委員会を代表して長澤正宏氏がされました。

佐喜真氏再選 新基地容認ではない 国に「5年以内」閉鎖責任

2016.1.25 琉球新報<社説>

宜野湾市長選で佐喜真淳氏が再選を果たした。佐喜真氏の1期4年の実績を市民が評価し、今後の市政運営に期待した結果である。

ただし佐喜真氏再選で沖縄の民意が米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設容認に変わったわけではない。佐喜真氏は選挙戦で辺野古移設の賛否を明言せず、市民が容認したことにはならないからだ。

重視すべきは、佐喜真氏が公約した普天間飛行場の5年以内運用停止を、市民が国に突き付けたことだ。佐喜真氏を支援した安倍政権には5年以内の期限である2019年2月までに運用停止を実現する責任がある。

曲解は許されない

安倍晋三首相は市長選を前に「安全保障に関わることは国全体で決めることだ。一地域の選挙で決定するものではない」と述べた。民意をないがしろにする許されない発言だが、翁長県政与党が支援した志村恵一郎氏が落選したことを捉えて、辺野古移設が支持されたとする可能性がある。曲解は許されな

い。厳に慎むべきだ。

宜野湾市長選を前に琉球新報社などが昨年12月末に実施した世論調査で「県外移設」「国外移設」「無条件の閉鎖撤去」は計71・1%に上った。1月調査でもその割合は計74・4%に達した。国が推し進める「辺野古移設」支持は12月調査11・1%、1月調査12・9%でしかない。この結果からしても市民が普天間飛行場の閉鎖と引き換えに、辺野古新基地建設を望んでないことは明らかだ。

佐喜真氏は「普天間飛行場の固定化は許さない」と訴えて当選した。選挙結果が示すことは、普天間飛行場によって市民が危険にさらされている状況を、1996年の返還合意後20年も放置する国に対する市民の強い怒りである。

佐喜真氏には5年以内運用停止を実現する責任がある。だが、たなごらしにされる可能性は否定できない。

中谷元・防衛相は昨年、5年以内運用停止の定義を「飛行機が飛ばないこと」と明言した。菅義偉官房長官が(1)空中給油機能(2)

緊急時着陸機能（3）オスプレイの運用機能
 一の3要件停止だとの見解を示すと、防衛相は「幻想を与えるようなことは言うべきでない」と前言を撤回した。

市民が求める運用停止は、飛行機などが飛ばないことである。佐喜真氏も「一日も早い閉鎖、返還を求める」と訴えた。安倍政権が支援したのは佐喜真氏の政策と合致したからだろう。ならば、その実現に全力を尽くすのが筋である。裏切りは許されない。

分断策克服を

沖縄は、基地をめぐる対立をうんざりするほど抱え込まされてきた。なぜ沖縄ばかりが市民を分断されねばならないのか。

市民の一体感が損なわれれば政策効果が上がらないことは、ロバート・パットナムのソーシャルキャピタル（社会関係資本）をめぐる研究で実証済みだ。沖縄の社会を分断してきた国の罪は大きい。もう分断はたくさんだ。

佐喜真氏にはその克服も求めたい。市民の一体感回復へ包容力を持って進んでもらいたい。

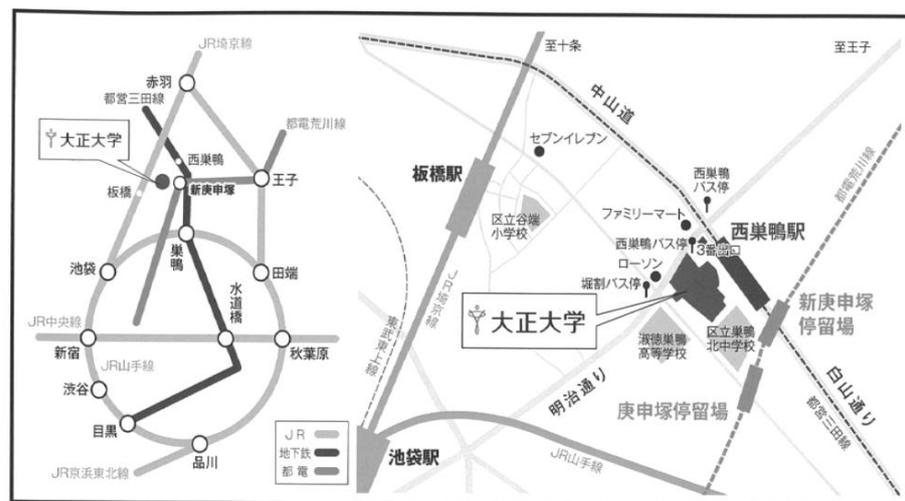
今、子どもの貧困が可視化されつつある。宜野湾市も例外ではない。子ども全ての生活、学びを保障するのは喫緊の課題だ。親の経済格差を次世代に引き継いでではない。佐喜真氏は有効な手だてを講じてほしい。

今選挙では両候補に共通する政策も目立った。学校給食費の無料化、子どもの医療費無料化などがそれだ。子どもをめぐる環境を意識しての政策だろう。これらの実現はいわば最大公約数だ。佐喜真氏は公約を早期に実現してもらいたい。

「公約は破るもの」という昨今のあしき常識を、佐喜真氏には打ち破り、政治は信頼できるものだと実感できる結果を示してほしい。18歳選挙権が実現する年の最初の主要選挙の結果として、望まれるのはそのことだ。

第30回日本高齢者大会 in 東京 会場

◇1日目 8月28日(日)講座・分科会 大正大学
 〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨 3-20-1



電車の場合

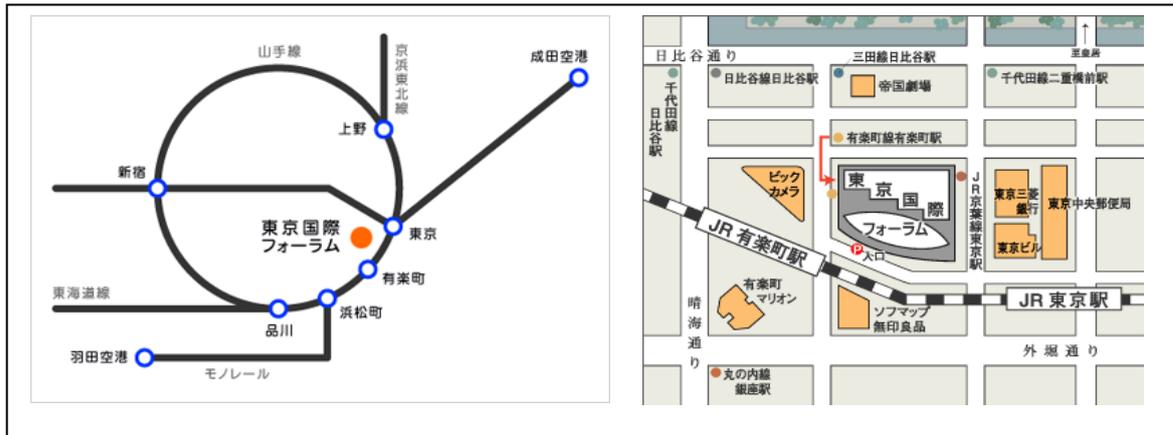
東京駅から約30分

東京(山手線内)⇒巣鴨(都営三田線乗換)⇒西巣鴨

- 都営地下鉄三田線……西巣鴨駅下車 徒歩2分
- JR 埼京線……板橋駅東口下車 徒歩10分
- 都電荒川線……新庚申塚駅又は庚申塚駅下車 徒歩7分

◇2日目 8月29日(月)全体会 東京国際フォーラム

〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目5番1号



JR線

- ・有楽町駅より徒歩1分
- ・東京駅より徒歩5分（京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡）

地下鉄

- ・有楽町線 有楽町駅とB1F地下コンコースにて連絡
- ・日比谷線 銀座駅より徒歩5分／日比谷駅より徒歩5分
- ・千代田線 二重橋前駅より徒歩5分／日比谷駅より徒歩7分
- ・丸の内線 銀座駅より徒歩5分
- ・銀座線 銀座駅より徒歩7分／京橋駅より徒歩7分
- ・三田線 日比谷駅より徒歩5分

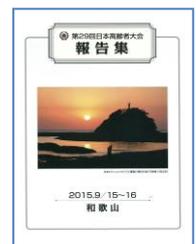
※第29回日本高齢者大会 in 和歌山 報告集 (定価 1,200円)

※第29回日本高齢者大会 in 和歌山 DVD (定価 500円)

☆高齢者運動連絡会関係限定販売

<特色> 和歌山大会の記録 ダイジェスト (15分)

安齋育郎氏の記念講演 (70分)



※篠崎次男氏著 高齢期運動のブックレットNo.2

「日本における高齢期保障の歩みと高齢期運動」発刊(社)日本高齢期運動サポートセンター
高齢期運動を学ぶテキストとして最適です。(定価500円)

*お申し込みはFax 03-3384-6654